



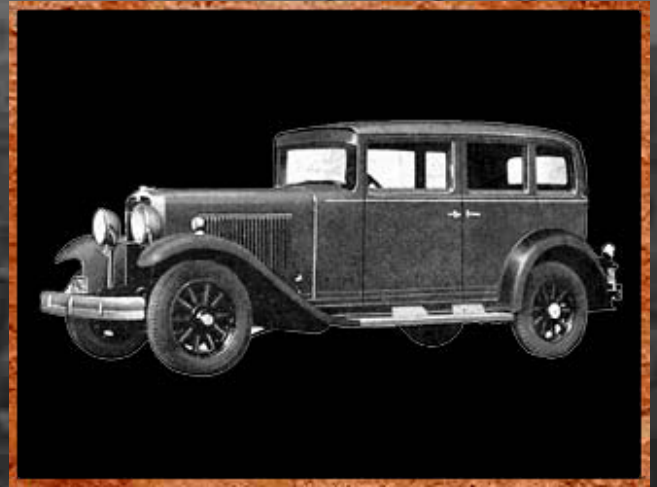
1900～1930年代 自動車国産化への一歩

主な社会のできごと ・ [日露戦争](#)(1904-1905) ・ [第一次世界大戦](#)(1914-1919) ・ [関東大震災](#)(1923) ・ [世界恐慌](#)(1929)

第一次世界大戦後、輸出産業で富を築いた人々に、自動車がステイタスの象徴として認められたことで、国内での需要を伸ばし、自動車の国産化が進められた。当初は輸入車を手本に、その基盤技術を読み解くことで、国産化への一歩を踏み出した。

繊維工業や航空機工業で技術を蓄積した中部地域では、1930年に「名古屋（中京）デトロイト構想」を発表。1932年には異業種メーカーが共同で「アツタ号」試作1号を完成させたが、企業化には至らなかった。国によって自動車の国産化は保護されたが、国産技術を確認するためには、事業として成り立つだけの規模が必要であり、大量生産体制が求められた。

1935年には日本初の量産工場といわれる日産自動車横浜工場が稼動し、続く1938年にはトヨタ自動車挙母工場が稼動。こうした量産工場の完成により、自動車工業の基礎が築かれていった。



企業トピック

ものづくりトピック

技術トピック

社会トピック

- 1903年 [ヘンリー・フォード](#)が[フォード社](#)を設立する
- 1911年 [快進社](#)（現在の日産自動車の前身）が設立する
- 1926年 [快進社](#)と大阪の実用自動車製造が合併してダット自動車製造となる

年表へ戻る ➤



1900～1930年代

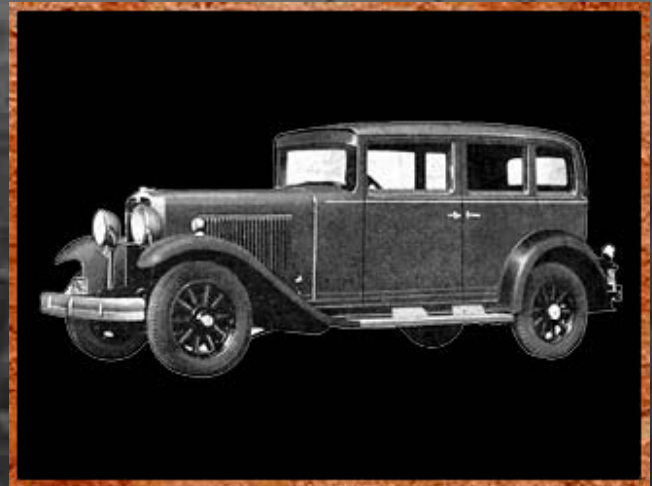
自動車国産化への一歩

主な社会のできごと ・ [日露戦争](#)(1904-1905) ・ [第一次世界大戦](#)(1914-1919) ・ [関東大震災](#)(1923) ・ [世界恐慌](#)(1929)

第一次世界大戦後、輸出産業で富を築いた人々に、自動車がステータスの象徴として認められたことで、国内での需要を伸ばし、自動車の国産化が進められた。当初は輸入車を手本に、その基盤技術を読み解くことで、国産化への一歩を踏み出した。

繊維工業や航空機工業で技術を蓄積した中部地域では、1930年に「名古屋（中京）デトロイト構想」を発表。1932年には異業種メーカーが共同で「アツタ号」試作1号を完成させたが、企業化には至らなかった。国によって自動車の国産化は保護されたが、国産技術を確認するためには、事業として成り立つだけの規模が必要であり、大量生産体制が求められた。

1935年には日本初の量産工場といわれる日産自動車横浜工場が稼動し、続く1938年にはトヨタ自動車挙母工場が稼動。こうした量産工場の完成により、自動車工業の基礎が築かれていった。



企業トピック

ものづくりトピック

技術トピック

社会トピック

- 1886年 [ドイツのベンツ社の創立者が世界初のガソリン車を製作する](#)
- 1904年 山羽虎夫が蒸気自動車（国産自動車第1号）を製作する
- 1907年 東京自動車製作所が「[タクリー号](#)（国産ガソリン車第1号）」を製作する
- 1910年 アメリカの[フォード社](#)が「[T型フォード](#)」の生産を開始する
- 1914年 [快進社](#)（現在の日産自動車の前身）が「[ダット号](#)」の製造を開始する
- 1917年 [三菱造船](#)が「[三菱A型](#)」を製作する
- 1932年 愛知県で高級乗用車「[アツタ号](#)」試作第1号が完成する
- 1933年 豊田自動織機（現、トヨタ自動車）がバス製造を開始する
- 1934年 [豊田自動織機](#)（現、トヨタ自動車）でA型エンジンが完成する



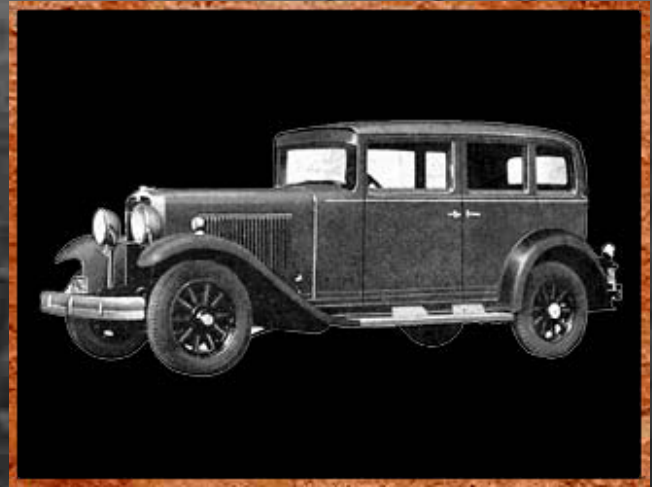
1900～1930年代 自動車国産化への一歩

主な社会のできごと ・ [日露戦争](#)(1904-1905) ・ [第一次世界大戦](#)(1914-1919) ・ [関東大震災](#)(1923) ・ [世界恐慌](#)(1929)

第一次世界大戦後、輸出産業で富を築いた人々に、自動車がステイタスの象徴として認められたことで、国内での需要を伸ばし、自動車の国産化が進められた。当初は輸入車を手本に、その基盤技術を読み解くことで、国産化への一歩を踏み出した。

繊維工業や航空機工業で技術を蓄積した中部地域では、1930年に「名古屋（中京）デトロイト構想」を発表。1932年には異業種メーカーが共同で「アツタ号」試作1号を完成させたが、企業化には至らなかった。国によって自動車の国産化は保護されたが、国産技術を確認するためには、事業として成り立つだけの規模が必要であり、大量生産体制が求められた。

1935年には日本初の量産工場といわれる日産自動車横浜工場が稼動し、続く1938年にはトヨタ自動車挙母工場が稼動。こうした量産工場の完成により、自動車工業の基礎が築かれていった。



企業トピック

ものづくりトピック

技術トピック

社会トピック

- 1923年 イギリスのモーリス社が[トランスファーマシン](#)を開発する
- 1925年 [日本フォード社](#)が国内での組立生産を開始する
- 1926年 日本ゼネラルモーターズ社（GM）が国内で組立生産を開始する
- 1947年 アメリカの[フォード社](#)がオートメーションをスタートする

年表へ戻る ▶



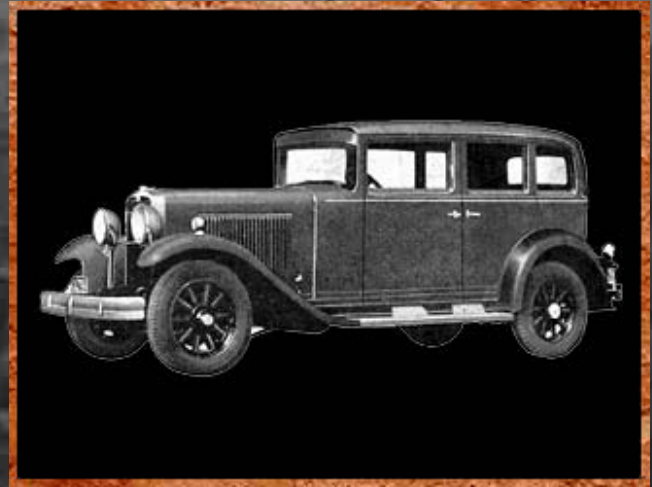
1900～1930年代 自動車国産化への一歩

主な社会のできごと ・ [日露戦争](#)(1904-1905) ・ [第一次世界大戦](#)(1914-1919) ・ [関東大震災](#)(1923) ・ [世界恐慌](#)(1929)

第一次世界大戦後、輸出産業で富を築いた人々に、自動車がステイタスの象徴として認められたことで、国内での需要を伸ばし、自動車の国産化が進められた。当初は輸入車を手本に、その基盤技術を読み解くことで、国産化への一歩を踏み出した。

繊維工業や航空機工業で技術を蓄積した中部地域では、1930年に「名古屋（中京）デトロイト構想」を発表。1932年には異業種メーカーが共同で「アツタ号」試作1号を完成させたが、企業化には至らなかった。国によって自動車の国産化は保護されたが、国産技術を確認するためには、事業として成り立つだけの規模が必要であり、大量生産体制が求められた。

1935年には日本初の量産工場といわれる日産自動車横浜工場が稼動し、続く1938年にはトヨタ自動車挙母工場が稼動。こうした量産工場の完成により、自動車工業の基礎が築かれていった。



企業トピック

ものづくりトピック

技術トピック

社会トピック

- 1898年 [フランス人技師デブネが日本に乗用車を売り込みに来る](#)
- 1900年 サンフランシスコの在留日本人が皇太子（後の大正天皇）に自動車を献納する
- 1900年 横浜在住のアメリカ人貿易商トンブソンがアメリカ製蒸気自動車を取り寄せる
- 1903年 [第5回内国勲業博覧会で自動車が展示される](#)
- 1918年 「[軍用自動車補助法](#)」が制定される
- 1923年 [関東大震災](#)が起こり、救援のために自動車を利用される
- 1930年 「[名古屋（中京）デトロイト構想](#)」が提唱される
- 1936年 「[自動車製造事業法](#)」が制定される